

# 圧密

## 1 圧密方程式

ひずみ  $\epsilon$  の時間変化と体積  $v$  の変化についての偏微分方程式は次のようになる。

$$\frac{\partial \epsilon}{\partial t} = \frac{\partial v}{\partial z} \quad (1)$$

右辺を透水係数  $k$  を用いて表す。動水勾配を  $i$ 、水頭ポテンシャルを  $h$  とすると、

- $v = ki = k \left( -\frac{\partial h}{\partial z} \right)$
- なお、水頭ポテンシャル  $h$  は、 $h = z + \frac{u_s}{\gamma_w} + \frac{u}{\gamma_w}$  (静水圧  $u_s$ 、間隙水圧  $u$ 、水の密度  $\gamma_w$ )
- $z + \frac{u_s}{\gamma_w}$  は、一定なので、 $z$  で偏微分すると  $\frac{\partial h}{\partial z} = \frac{1}{\gamma_w} \frac{\partial u}{\partial z}$
- この式を代入すると、 $v = -\frac{k}{\gamma_w} \frac{\partial u}{\partial z}$  となり、 $\frac{\partial v}{\partial z} = \frac{\partial}{\partial z} \left( -\frac{k}{\gamma_w} \frac{\partial u}{\partial z} \right)$

左辺を体積圧縮係数  $m_v$  を用いて表す。ひずみを  $\epsilon$ 、有効応力を  $\sigma'$  ととすると、

- $\epsilon = m_v \sigma'$
- ここで、荷重  $p_0$  は、有効応力  $\sigma'$  と間隙水圧  $u$  により次式で表すことができる。  $p_0 = \sigma' + u$  より、 $\sigma' = p_0 - u$  となり、 $p_0$  が一定のときは、 $t$  で偏微分すると、 $\frac{\partial \sigma'}{\partial t} = -\frac{\partial u}{\partial t}$  なので、
- $\frac{\partial \epsilon}{\partial t} = m_v \frac{\partial \sigma'}{\partial t} = -m_v \frac{\partial u}{\partial t}$

したがって、式 (1) の両辺は次の式となる。

$$-m_v \frac{\partial u}{\partial t} = \frac{\partial}{\partial z} \left( -\frac{k}{\gamma_w} \frac{\partial u}{\partial z} \right) \quad (2)$$

これを整理すると、次の式となる。

$$\frac{\partial u}{\partial t} = \frac{k}{m_v \gamma_w} \frac{\partial^2 u}{\partial z^2} = C_v \frac{\partial^2 u}{\partial z^2} \quad (3)$$

$C_v$  を圧密係数といい、これが、圧密基礎方程式である。

## 2 時間係数

圧密基礎方程式において，土の厚さ  $z$  と時間  $t$  を無次元化する．つまり，比で表すと  $Z = \frac{z}{z_0}$  また， $T_v = \frac{t}{t_0}$  となり，これを圧密方程式に代入する．

$$\frac{1}{t_0} \frac{\partial u}{\partial T_v} = C_v \frac{1}{z_0^2} \frac{\partial^2 u}{\partial Z^2} \quad (4)$$

これを整理すると，次の式となる．

$$\frac{\partial u}{\partial T_v} = \frac{C_v t_0}{z_0^2} \frac{\partial^2 u}{\partial Z^2} \quad (5)$$

無次元化したので， $\frac{C_v t_0}{z_0^2} = 1$  となり， $t_0 = \frac{z_0^2}{C_v}$

これを上の無次元化した  $T_v =$  の式に代入すると， $T_v = \frac{C_v t}{z_0^2}$  となる．

初期における土の深さ  $z_0$  を層厚  $H$  とおくと，

$$T_v = \frac{C_v t}{H^2} \quad (6)$$

この式は，圧密を解く上で極めて重要な式なので，覚えておこう．なお，このときの  $H$  は，片側からしか排水されないときを想定しているので，両側から排水される場合は，層厚  $H$  の2分の1の値を利用する． $z$  と  $t$  を無次元化することによって解くべき微分方程式は，以下の熱伝導の形となる．

$$\frac{\partial u}{\partial T_v} = \frac{\partial^2 u}{\partial Z^2} \quad (7)$$

## 3 圧密度

最終圧密沈下量  $S$  に対し，ある時点の圧密沈下量が  $S_t$  のとき，圧密度  $U$  は次式となる．

$$U = \frac{S_t}{S} \quad (8)$$

圧密沈下量を求めるには，先のひずみと有効応力との関係  $\epsilon = m_v \sigma'$  より，

$$S_t = \int_0^H \epsilon dz = \int_0^H m_v \sigma' dz = \int_0^H (p_0 - u) dz \quad (9)$$

これを解くのに先の微分方程式を利用する．さらに  $S$  についても同様に解けば，圧密度と時間係数との関係が求まる．

$$U = 1 - \frac{8}{\pi^2} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{(2n+1)^2} e^{-\left(\frac{2n+1}{2}\pi\right)^2 T_v} \quad (10)$$